

資料 2（平成 27 年 10 月一部改定時）

「かながわ教育ビジョン」の一部改定に向けて、平成 25 年 11 月のかながわ人づくりコラボをきっかけに始められた「県民論議」、それを踏まえて県教育委員会がいただいた「提言」や、「県民意見募集」などを中心に、県民の皆様とともに進めてきた取組みの記録や資料などを整理しました。

1	教育ビジョンの策定時と比較した現在の状況に関する参考資料	・・・ 1
2	教育ビジョンの一部改定の過程	・・・ 8
3	教育ビジョンの一部改定に向けた県民論議の展開	・・・ 9
4	「かながわ教育ビジョン」の一部改定に関する提言	・・・ 14
5	県民意見募集の展開	・・・ 17
参考	第 4 章・第 5 章に関する平成 27 年一部改定と平成 19 年策定時との比較	・・・ 18

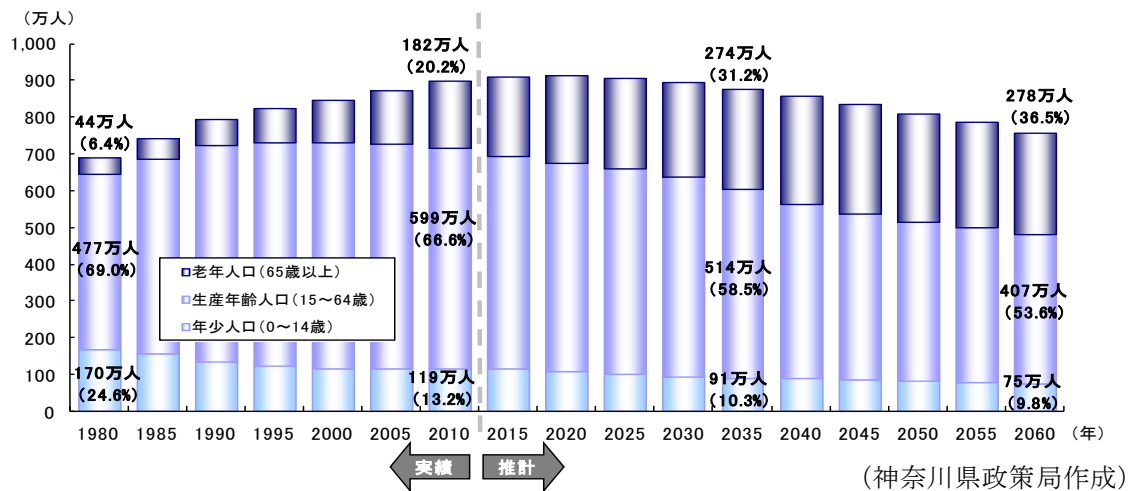
1 教育ビジョンの策定時と比較した現在の状況に関する参考資料

1 社会状況の変化

(1) 少子高齢化の進行と人口減少社会の到来

本県の人口は、全国よりも遅く 2018 年にピークを迎え、その後、減少していくことが見込まれています。また、全国平均を上回るスピードでの高齢化、出生率の低下が続き、本県も人口減少社会を迎えることが確実視されています。

■ 図 1 年齢 3 区分別の人口推計（中位推計）



出典：総合計画審議会計画推進評価部会報告書「社会環境の変化に伴う課題について」

※2010年までの実績値は国勢調査結果
※年齢3区分の割合は、年齢不詳を除いて算出

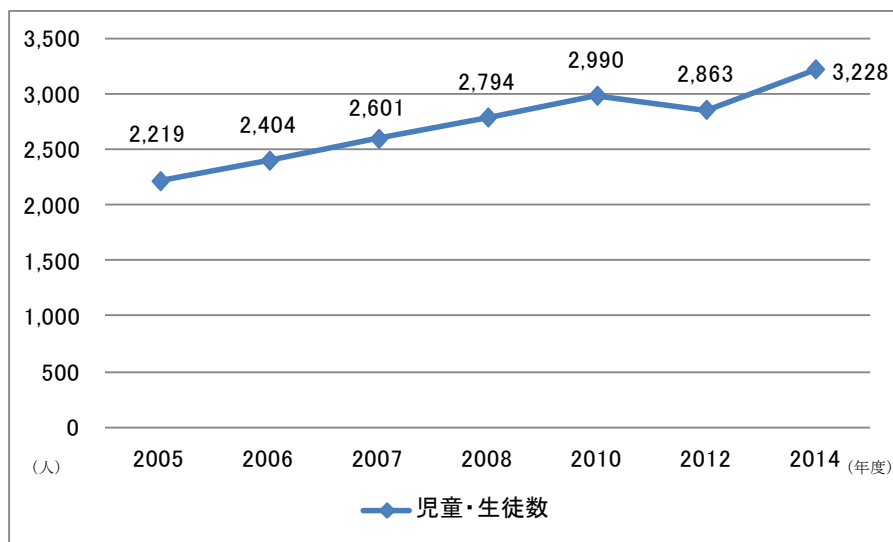
(2) 国際化と情報化の進展

社会はボーダレス化が進み、人やモノが国境を越えて、自由に移動するようになっています。日常的な生活の場面でも、多様な文化や価値観を認め合っていくことが必要です。

外国籍県民の増加、定住化が進む中で、学校でも外国につながるのある子どもたちが増えています。

また、情報化が急速に進み、今後、スマートフォン、タブレット型端末などによるインターネット利用はますます増加していくことが見込まれています。

■ 図2 日本語指導が必要な外国人児童・生徒の受入れ状況（神奈川県）



（文部科学省「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査」より作成）

◆ 表1 都道府県別情報化指標（「平成25年版情報通信白書」）

都道府県	携帯インターネット人口普及率(%) ※1	順位	携帯電話契約数人口普及率(%) ※2	順位
東京都	69.6	1	161.5	1
神奈川県	68.5	2	96.5	4
滋賀県	63.2	3	85.7	14
埼玉県	62.8	4	89.0	9
大阪府	62.3	5	101.0	2

（総務省「平成25年版情報通信白書」より作成）

- ※1 各都道府県人口に占める携帯電話インターネット利用者の割合
 [携帯インターネット利用者の定義：平成24年の1年間に携帯電話（スマートフォン、PHS、携帯情報端末（PDA）なども含む）よりインターネットを1回以上利用したことのある人（インターネットの利用が無回答を除く割合）]
- ※2 都道府県別携帯電話・PHS契約数を住民基本台帳（平成23年3月31日）に基づく都道府県人口で除した数値

◆ 表2 都道府県別情報化指標（「平成17年版情報通信白書」）

都道府県	携帯インターネット人口普及率(%) ※1	順位	携帯電話・PHS契約数人口比(%) ※2	順位
東京都	49.8	1	115.2	1
奈良県	48.8	2	63.1	19
香川県	48.3	3	71.5	8
神奈川県	44.0	4	69.5	10
埼玉県	43.9	5	64.4	16

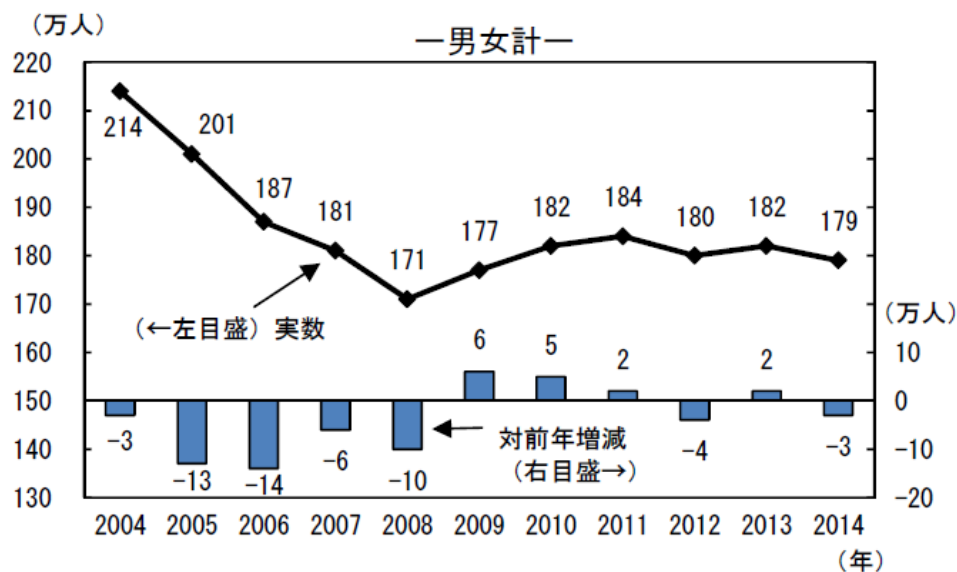
（総務省「平成17年版情報通信白書」より作成）

- ※1 携帯インターネット＝インターネットに接続できる携帯電話から、インターネット、メール又はウェブアクセス利用目的での利用者数を調査回答者数で除した数値（平成17年1月～3月の調査結果）
- ※2 都道府県別携帯電話・PHS契約数（平成16年12月末現在）を住民基本台帳（平成16年3月31日現在）に基づく都道府県別人口で除した数値

(3) 産業・就業構造の変化

産業構造の転換が進み、多様な働き方が広がる中で、若者の勤労観・職業観や企業の雇用形態も変化しています。そうした中で、多様な能力を生かして活躍できる機会が広がる一方、フリーターなどの非正規雇用の割合も高まり、若年層の無業者（いわゆるニート）の増加が社会問題化しています。

■図3 フリーター（「若年層のパート・アルバイト及びその希望者」）の数



(総務省統計局「労働力調査(詳細集計)平成26年(2014年)」)

(4) 地方分権改革の進展

「地域でできることは地域で」行うことを基本に、地方分権を推進する取組みが進められています。地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図る関係法令の整備、市町村への権限移譲が進められています。

(5) 多様な主体との協働・連携の拡大

県民ニーズの多様化に伴い、本県では多くの人々が、ボランティアやNPO法人等の活動を行っており、地域の課題等に対して自発的・主体的に取り組んでいます。

◆表3 特定非営利活動促進法に基づく認証数

順位	所轄庁名	認証数	全国に占める割合 (%)
1	東京都	9,464	18.9
2	大阪府	3,516	7.0
3	神奈川県	3,406	6.8
4	兵庫県	2,101	4.2
5	北海道	2,043	4.1
	全国計	50,094	100.0

(内閣府「特定非営利法人の認証数」(平成27年)より作成)

2 かながわの教育をめぐる現状

県では、教育ビジョンの策定に際し、当時の社会状況を把握するため、平成17年度に学校関係者及び県民の方々を対象として教育に関する意識調査を実施しました。そこで、今回の教育ビジョンの一部改定にあたって、前回の調査を踏まえて、「子どもの実態」「家庭教育」「学校と地域」「県が取り組むべき施策」など、9つのテーマに沿って、「平成25年度教育に関する意識調査」を実施しました。

○回答結果

(単位：人)

学校関係者回答数	平成25年度						平成17年度				
	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	校種不明	計	小学校	中学校	高等学校	盲・ろう・養護学校	計
教職員	875	474	447	194	56	2,046	806	515	354	188	1,863
保護者	1,179	1,167	1,059	130	97	3,632	1,300	1,290	1,233	53	3,876
学校評議員	180	168	101	24	61	534	195	185	108	27	515
児童・生徒	1,254	1,316	1,684	124	—	4,378	1,394	1,446	1,636	65	4,541
計	3,488	3,125	3,291	472	214	10,590	3,695	3,436	3,331	333	10,795
県民回答数	1,233						1,530				

(1) 子どもの思いと育ちの姿

子ども自身に関する質問項目のうち、子どもへの「夢中になれるとき」という質問をみると、平成17年度に実施した教育に関する意識調査に比べて、子どもたちの他者とのかわりに関する項目での回答の割合と、趣味など自分の好きなことやゲームといった個人的な楽しみに関する項目での回答の割合に変化が見られます。

◆表4 夢中になれるとき(高校生)

高校生	平成25年度	平成17年度	増減
友だちと遊んだり、話したりしているとき	70.5%	74.4%	－ 3.9pt
スポーツをしているとき	38.4%	44.8%	－ 6.4pt
趣味など自分の好きなことをしているとき	73.2%	69.7%	＋ 3.5pt
ゲームをしているとき	20.5%	10.5%	＋10.0pt

(2) 家庭について

家庭に関する質問項目のうち、子どもたちの家庭における学習習慣に関する質問をみると、「家で勉強する習慣がある」という質問に対して「そう思う」という回答の割合（表5）や、学校外での生活について「学校の宿題や予習・復習などの勉強をする」と回答した割合（表6）は、平成17年度調査に比べて、小中高のいずれも高くなっています。また、「家で勉強する習慣がある」という質問については、小学生と中高生の回答の割合は大幅な差が見られます（表5）。

◆表5 自分自身について

問：「家で勉強する習慣がある」自分自身についてどのように思うか。

答：「そう思う」

	平成25年度	平成17年度	増減
小学生	52.3%	39.5%	+12.8pt
中学生	28.1%	21.2%	+ 6.9pt
高校生	18.6%	11.7%	+ 6.9pt

◆表6 学校外での生活

問：学校にいるとき以外の過ごし方について

答：「学校の宿題や予習・復習などの勉強をする」

	平成25年度	平成17年度	増減
小学生	23.9%	18.9%	+5.0pt
中学生	21.2%	14.2%	+7.0pt
高校生	15.3%	9.0%	+6.3pt

(3) 地域について

地域に関する質問項目のうち、学校・家庭・地域の連携・協力の状況に関して、「家庭や学校との連携・協力が行われている」と考える回答の割合は、平成17年度調査に比べて高くなっています（表7）。

一方で、「学校への地域の望ましい関わり方」という質問に対して、「地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する」（表8）、「家庭、地域が学校運営に積極的に関わることでできるしくみをつくる」（表9）に対する回答については、教職員と学校評議員や県民との割合の差が大きくなっています。

◆表7 学校・家庭・地域での教育課題

問：地域では児童・生徒の教育のために、家庭や学校との連携・協力が行われているか。

答：「そう思う」と「どちらかというと思う」

	平成25年度	平成17年度	増減
教職員	54.8%	50.5%	+4.3pt
保護者	36.0%	28.4%	+7.6pt
学校評議員	56.0%	48.4%	+7.6pt
県民	21.7%	16.7%	+5.0pt

◆表 8 学校への地域の望ましい関わり方（教職員）

問：学校活動への地域の関わり方について	平成25年度
答：地域の方が学校関係者と協働して、直接学校運営に参画する 教職員	4.1%

◆表 9 学校・家庭・地域との連携（学校評議員、県民）

問：学校、家庭、地域がより連携協力を進めるためには、特にどのようなことが必要か	平成25年度
答：家庭、地域が学校運営に積極的に関わることのできるしくみをつくる 学校評議員	24.3%
県民	23.4%

(4) 学校について

学校に関する質問項目のうち、「学校では確かな学力の定着が図られている」と回答する割合が、教職員、保護者、学校評議員、県民のすべてにおいて平成17年度調査に比べて高くなっています（表10）。

また、学習指導に関しては、保護者や学校評議員に比べて、教職員では「自ら考える力・表現する力」に重点を置くとする回答の割合に顕著な変化が見られます（表11）。

◆表 10 学校・家庭・地域での教育課題

問：学校では、確かな学力の定着が図られているか。

答：「そう思う」と「どちらかというと思う」

	平成25年度	平成17年度	増減
教職員	55.7%	41.8%	+13.9pt
保護者	41.5%	26.8%	+14.7pt
学校評議員	61.4%	46.4%	+15.0pt
県民	24.3%	14.3%	+10.0pt

◆表 11 かながわの学習の重点

問：「多くの知識や技能（A）」「自ら考える力・表現する力（B）」のどちらを重視するか。

答：学習指導の重点（A（B）+どちらかというA（B））（教職員）

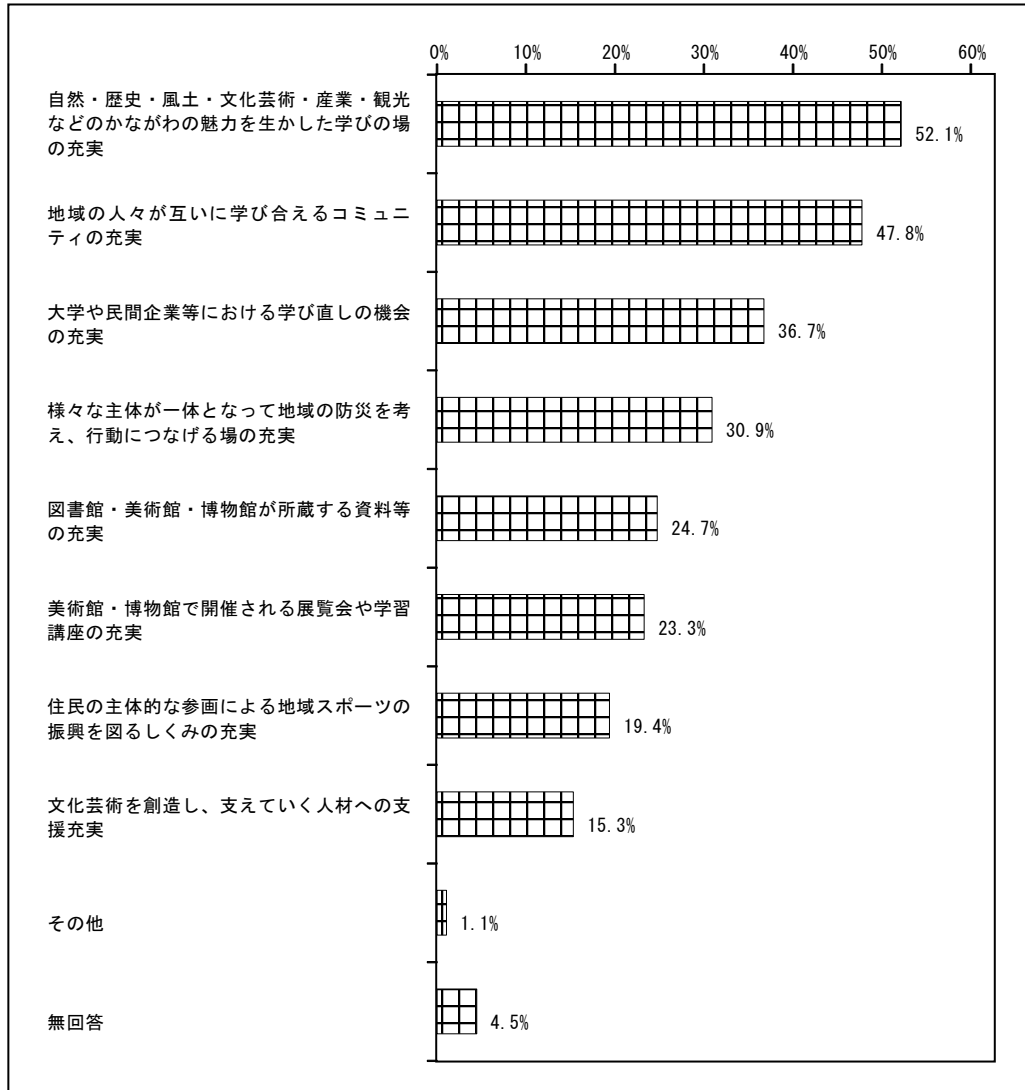
教職員		平成25年度	平成17年度	増減
小学校	多くの知識や技能（A）	16.7%	28.0%	-11.3pt
	自ら考える力・表現する力（B）	83.0%	71.4%	+11.6pt
中学校	多くの知識や技能（A）	28.7%	42.9%	-14.2pt
	自ら考える力・表現する力（B）	71.1%	56.3%	+14.8pt
高等学校	多くの知識や技能（A）	32.0%	51.4%	-19.4pt
	自ら考える力・表現する力（B）	67.8%	46.1%	+21.7pt
特別支援学校	多くの知識や技能（A）	16.0%	28.7%	-12.7pt
	自ら考える力・表現する力（B）	83.5%	69.1%	+14.4pt

(5) 自分づくり・人づくりについて

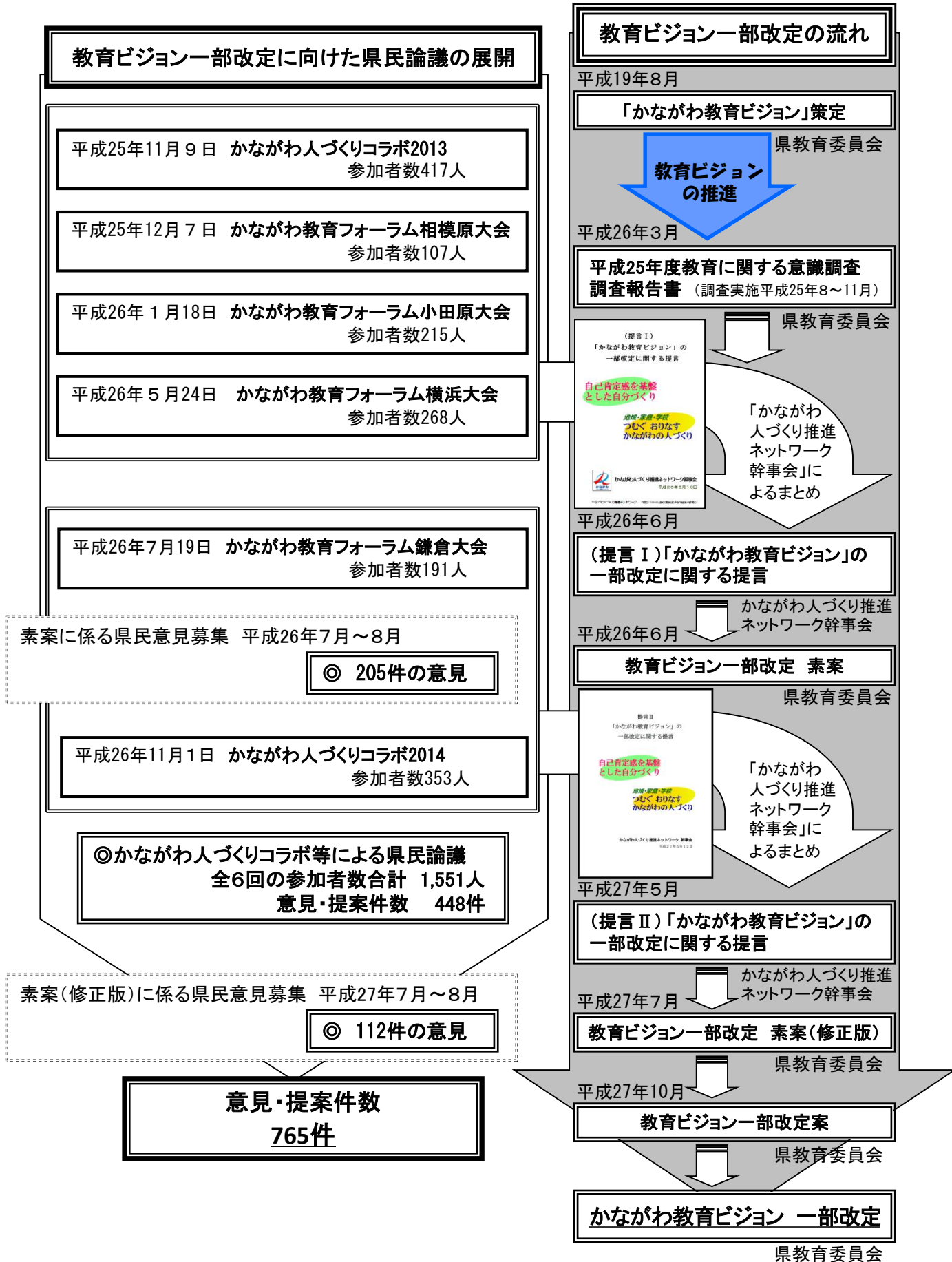
生涯にわたる自分づくり・人づくりに関する質問項目では、県民は、「自然・歴史・風土・文化芸術・産業・観光などのかながわの魅力を生かした学びの場の充実」や「地域の人々が互いに学び合えるコミュニティの充実」、「大学や民間企業等における学び直しの機会の充実」を期待する回答の割合が高くなっています。

■ 図4 生涯にわたる自分づくりの実践

問：生涯にわたる自分づくりの実践について、期待すること



2 教育ビジョンの一部改定の過程



3 教育ビジョンの一部改定に向けた県民論議の展開

かながわ人づくりコロボや、かながわ教育フォーラムを開催し、多くの県民の皆様や教育関係者などと、論議を重ねました。

(1) かながわ人づくりコロボ

教育ビジョンの推進状況などをもとに、県民の皆様と検証を行い、課題解決に向けた今後の方向性について論議する場として、平成25年と26年は、教育ビジョンの一部改定に向けた論議を多くの県民の皆様や教育関係者と行いました。

ア かながわ人づくりコロボ 2013

「かながわの教育の未来像を考える～『かながわ教育ビジョン』による今後の展開と取り組み～」をテーマに、教育ビジョン一部改定に向けた説明に続き、基調提案と教育論議を行い、今後の教育論議を進めて行く上での視点をまとめました（学校教育の視点として5つ、家庭教育・地域協働の視点として5つ）。

また、平成17年から数えて10回目の記念開催として特別記念講演を行いました。

日時：平成25年11月9日（土） 場所：県立神奈川総合高等学校

参加者数：417人

○コロボ2013～2014年度への展開

○教育論議

・基調提案

「教育の『意義』とは」 東京大学 本田由紀 教授

「今後の高校教育の在り方」 玉川大学 坂野慎二 教授

・教育論議

「県民との協働・連携による教育・人づくりの推進について」

「家庭・地域との連携による学校教育の推進について」

○特別記念講演「～明日のかながわのアスリートをつくる～」

神奈川県教育委員会 具志堅幸司 委員長

日本体育大学教員 田中理恵 選手

県立岸根高校 白井健三 選手



イ かながわ人づくりコロボ 2014

「かながわの教育のこれからを考える～地域・家庭・学校をつなぐかながわの人づくり～」をテーマに、教育ビジョンの「策定とその推進」「今後の展開」について説明を行い、基調講演の後、「コミュニティが人を育てる」をテーマとした教育論議を行いました。

日時：平成26年11月1日（土） 場所：横浜市西公会堂

参加者数：353人

○「かながわ教育ビジョン」について

○教育論議

・基調講演

「地域・家庭・学校をつなぐかながわの人づくり」

日本大学 佐藤晴雄 教授

・教育論議

「コミュニティが人を育てる」



(2) かながわ教育フォーラム

「かながわ教育ビジョン」の第4章・第5章の検証と改定に向けて、県民の皆様と、実効性のある教育論議を深めるために、平成25年12月から、4回にわたり開催しました。

ア かながわ教育フォーラム相模原大会

「これからの学校教育を考える」をテーマに、基調提案に続き、5つのテーマ（「学校に期待する育みたい学力」「求められる交流・体験の教育活動」「必要な児童・生徒への支援のあり方」「期待される教職員」「これからの学校運営と環境整備のあり方」）によるワークショップを行い、その後、結果発表と教育論議を行いました。

また、記念演奏を行いました。

日時：平成25年12月7日（土） 場所：県立相模原中等教育学校

参加者数：107人



○ワークショップで主に論議された事項

ワークショップ テーマ	論議された事項
学校に期待する育みたい学力	①これからの社会を生き抜く上で、子どもたちにどのような学力を身に付ける必要があるか（あるいは不足している学力は何か）。 ②「生き方・社会について考え、行動する力」を身に付けるためには、どのような教育活動に取り組む必要があるか。
求められる交流・体験の教育活動	①現在の子どものたちの日常や学校教育において、交流や体験的な活動は充実していると思うか。 ②これからの教育・人づくりにとって、どのような力を育むために、いかなる交流や体験的な活動が必要であるか。
必要な児童・生徒への支援のあり方	①支援を必要とする子どもたちが求めている教育・人づくりとは何か（どのような状況にある子どもたちにとっていかなる支援が必要か）。 ②支援が必要な子どもと保護者にとって、共に学び、共に生きる環境をどのようにつくるか。
期待される教職員	①子どもたちに信頼され、求められる教師とはどのような教師か（期待する教師の力とは）。 ②教師に期待する指導力とは何か、そのためにはどのような手立てが必要であるか。
これからの学校運営と環境整備のあり方	①協働と信頼に根ざした学校づくりを行う上では、学校はどのような運営改善が必要であるか。 ②子どもが快適で安全安心して学べる学校環境として、何をどのように整備していく必要があるか。

イ かながわ教育フォーラム小田原大会

「家庭教育・地域協働を考える」をテーマに、基調提案に続き、5つのテーマ（「家庭教育の役割と責任について考える」「期待する生涯学習の取組みとは」「地域協働による学校づくり（コミュニティ・スクール）への期待とは」「スポーツ・文化芸術振興の未来像とは」「郷土神奈川の歴史と伝統文化の未来への継承に向けて」）によるワークショップを行い、その後、結果発表と教育論議を行いました。

また、記念演奏を行いました。

日時：平成26年1月18日（土） 場所：県立小田原高等学校

参加者数：215人



○ワークショップで主に論議された事項

ワークショップ テーマ	論議された事項
家庭教育の役割と責任について考える	①家庭での子育て・家庭教育で担うべき役割（家庭教育の内容）とは具体的にどのようなものかと考えるか。 ②子育て・家庭教育に不安を抱き、悩みを抱えている保護者を支援するには、具体的にどのような方法が考えられるか。
期待する生涯学習の取組みとは	①生涯学習社会の構築に向けて、地域の教育資源（人的・物的）をどのように発掘し、活用に供することができるかと考えるか。 ②神奈川県として県民の生涯学習への取組みを活発にするにはどのような方法が考えられるか。
地域協働による学校づくり（コミュニティ・スクール）への期待とは	①学校づくりにとって地域の参画・協働はなぜ必要なのか、その理由をどのように考えるか。 ②地域との協働を推進するため、具体的にどのような方法が考えられるか。
スポーツ・文化芸術振興の未来像とは	①県民が行うスポーツ活動を今まで以上に充実させていくためには、どのような方法が考えられるか。 ②県民が行う文化芸術活動を今まで以上に充実させていくためには、どのような方法が考えられるか。
郷土神奈川の歴史と伝統文化の未来への継承に向けて	①神奈川の歴史と伝統文化を継承するために、学校教育では具体的にどのようなことに力を入れるべきかと考えるか。 ②神奈川の歴史と伝統文化を全国にあるいは海外にも普及するためには、具体的にどのような取組みが考えられるか。

ウ かながわ教育フォーラム横浜大会

「これからのかながわの教育・人づくりを考える～かながわ教育ビジョンの一部改定に向けて～」をテーマに、基調提案として、教育ビジョンの一部改定に関する「提言Ⅰ（案）」の説明の後、「提言Ⅰ（案）」について教育論議を行いました。

日時：平成26年5月24日（土） 場所：県立横浜平沼高等学校

参加者数：268人



エ かながわ教育フォーラム鎌倉大会

「かながわの教育の今後の展開と取り組み～生涯にわたる自分づくり・人づくり～」をテーマに、基調提案（提言Ⅰの概要）に続き、提言の5つの柱をテーマとしたワークショップを行い、その後、結果発表と教育論議を行いました。

日時：平成26年7月19日（土） 場所：鎌倉女子大学大船キャンパス

参加者数：191人



○ワークショップで主に論議された事項

ワークショップ テーマ	論議された事項
「いのち輝く」かながわ の生涯にわたる <自分づくり>	①生涯にわたって自ら学び続けることや、社会に参画・協働していくためには、どのような交流・体験、学びの機会があるとよいか。 ②社会との相互関係を保ちながら自分らしい生き方を実現していく、自立した社会人・職業人になるためには、どのような教育が必要か。
新たな教育コミュニティ を創出し、活力ある <地域づくり>	①地域が一体となり、かながわらしい教育力を向上させるためには、どのような場や機会や手段が考えられるか。 ②地域協働によるコミュニティの創出に向けて、どのような取組みが考えられるか。
変化する社会における家 庭での子育て・家庭教育 を支える <社会の仕組みづくり>	①地域が一体となって子どもを育てるために、地域はどのような交流・体験の機会をつくることができるか。 ②子どもが家庭から学校、社会に出る際の変化に対応するために、家庭が抱える課題に対して、どのような支援が必要か。
子どもの個性と能力を大 切にし、互いに成長し合 う場としての <学校づくり>	①全ての児童・生徒に分かる授業と個を大切にした支援づくりを行うには、どのような方法や体制づくりが必要か。 ②教育の質の向上と県民からの信頼と期待に応える学校づくりのために、どのような学校運営や教職員の確保・育成が必要か。
地域・家庭・学校をつな ぐ <教育環境づくり>	①生涯学習のための教育環境の充実として、どのような教育ネットワークの構築が考えられるか。また、グローバル化やインクルーシブ教育に向けてどのような教育環境の整備が考えられるか。 ②かながわ教育ビジョンに基づき、県民ニーズを捉え着実に教育施策を実施するためには、立案、点検・評価など、どのような方法が効果的か。

(3) 県民論議による意見・提案の状況

県民論議においては、その場で直接発言いただいたものや書面により、448件の意見・提案をいただきました。

- 「かながわ人づくりコラボ」での書面等による意見・提案件数 : 191件
- 「かながわ教育フォーラム」での書面等による意見・提案件数 : 257件

4 「かながわ教育ビジョン」の一部改定に関する提言

かながわ人づくりコラボや、かながわ教育フォーラムでの県民論議の成果を踏まえ、かながわ人づくり推進ネットワーク幹事会によって、「めざす方向性」と柱・視点をまとめた「提言Ⅰ」（平成 26 年6月）に続き、平成 27 年5月に教育ビジョンの一部改定に関する提言がまとめられました。（以下は一部抜粋）

私たちは、これまでの県民論議を通じて、参加者の皆様が最も必要と感じていることを次のテーマで表しました。

提言がめざす方向

未来を拓く・創る・生きる

自己肯定感を基盤とした自分づくり（生涯学習）

知識基盤社会において生涯にわたる自分づくりを支援する

地域 ・ 家庭 ・ 学校

つむぐ おりなす かながわの人づくり

○育てる思いを重ね合う ○持ち味や役割が響き合う ○学び合う、学び続ける

これは、地域、家庭、学校が協働し、それぞれの特徴や役割をいかして、これからのかながわの人づくりを、共に考え、実行していこうという願いを込めたものです。

「『つむぐ』とは、繊維を引き出して、よって糸にする。」「『おりなす』とは、糸を織って、美しい模様を織り上げる。」という意味で、未来を担う子どもたち一人ひとりの、それぞれの個性やよさをいかしつつ、まわりの大人たちが様々にかかわり合いながら大切に育てていくさまを表すとともに、子どもたち自身や大人たちも、そこから互いに学び合い、さらに生涯を通じて学び続けることで成長を遂げていく大切さ、すばらしさを表現したものです。

教育ビジョンの策定時以降、社会状況が変化し、生涯学習社会が進展する中で、未来を拓き、創り、生きることのできる、自己肯定感を基盤とした生涯にわたる「自分づくり」がますます重要となってきています。教育ビジョンの一部改定とその推進にあたっては、この「生涯にわたる自分づくり」の視点が大切であると考えています。

そのうえで、一人ひとりの「いのち輝く」生涯にわたる「自分づくり」を支援していく、「生涯にわたる人づくり」を一層進めていくことが大切になってきます。この「生涯にわたる人づくり」を支援する「場」という観点から、これまでと同様に、「地域・家庭・学校」という3つの場のそれぞれの役割を再度見つめ直し、協働・連携を進めていきたいと考えています。

そこで、新たな教育コミュニティの創出、活力ある地域づくりを進めること、産業構造や社会構造が変化する中で、安心して子どもを育てることができる子育て・家庭教育を支える社会の仕組みづくりを進めること、子どもの個性と能力を大切に、互いに成長し合う場としての学校づくりを進めていくことが必要です。

そして、このような地域・家庭・学校という3つの場をつなぐ「教育環境づくり」を進めることで、それぞれの役割を補完し合い、知識基盤社会を生き抜く生涯にわたる自分づくりが可能となってきます。この地域・家庭・学校というつながりの中で、重ね合い、響き合い、学び合うことによる協働・連携が進むことによって、新しい教育が展開されていくものと確信しています。

2 提言Ⅱの全体構成

1 「いのち輝く」かながわの生涯にわたる〈自分づくり〉

視点1 多様化した社会の中で自ら学び続けることのできる自分づくり

提言1 かながわの豊かな学びの機会や環境をいかして、生涯にわたって自ら学び続け、主体的かつ積極的に自分づくりに取り組む

提言2 地域・家庭・学校が協働して取り組む「人づくり」の場や機会をいかして「自ら学ぶ力」を育み高める

視点2 一人ひとりの個性や能力をいかした社会的・職業的に自立した自分づくり

提言3 自ら生きる意欲や態度を育み、社会の一員としての役割と責任を自覚し、自立した自分づくりに取り組む

提言4 キャリア教育を通じて、一人ひとりの成長に応じた社会活動と職業生活を意識し、行動力あふれる自分づくりに努める

視点3 これからの社会の創造に参画・協働できる自分づくり

提言5 子どもから大人まで、社会の創造に参画し、社会貢献活動を通じて自分づくりを進める

2 新たな教育コミュニティを創出し、活力ある〈地域づくり〉

視点4 生涯学習社会を支える地域の教育力の向上

提言6 誰もが学び、生き生きと活動できるように、生涯学習の環境整備と地域教育力の向上を図る

提言7 地域に根ざしたボランティア活動等の推進を通じた学びを充実する

視点5 協働して取り組むことのできる活力あるコミュニティの創出

提言8 地域力をいかしたコミュニティ・スクールの普及と充実に取り組む

提言9 地域の人が学び続けるための場づくりを進める

視点6 かながわの伝統文化の継承と芸術やスポーツによる地域の振興

提言10 地域の伝統文化・伝統芸能への興味・関心を高め普及・継承するための環境づくり

提言11 コミュニティ・スポーツの環境整備を進める

3 変化する社会における家庭での子育て・家庭教育を支える〈社会の仕組みづくり〉

視点7 変化する社会の中で求められる子育て・家庭教育への理解と協力

提言12 多様な子育て環境を理解し、家庭の孤立を防ぐために情報伝達の一層の推進を図る

提言13 家庭教育への地域の人々や企業の理解を促進し、協力し合うシステムを構築する

視点8 地域との連携による子どもの社会的な経験や体験の機会の充実

提言14 子どもが地域について学び、考え、行動できる環境を整える

視点9 家庭から学校や社会への円滑な接続・連携を図る教育的な支援

提言15 子どもが立場や状況の異なる人々とふれあい、自己肯定感を育める環境づくり

提言16 子どもの成長過程に応じた相談体制や支援を充実する

4 子どもの個性と能力を大切に、互いに成長し合う場としての<学校づくり>

視点10 学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業と個に応じた支援を大切にする学校教育

提言17 豊かな心を育てる教育をより一層推進する

提言18 主体的に学び、確かな学力を身に付けられるように、きめ細かで質の高い教育活動に取り組む

提言19 学校段階間の円滑な連携・接続に向けて、小中一貫教育等を推進する

視点11 信頼と期待に応える自主的・自律的な学校運営

提言20 魅力と活力があり、創意ある学校づくりを推進する

提言21 学校マネジメント機能をいかした学校運営の充実を図る

視点12 子どもの成長を図る教育の質の保証・向上を担う教職員の確保と育成

提言22 学ぶ側の立場を理解することのできる、豊かな人間性と専門性を身に付けた教職員の確保と育成を図る

提言23 教育の質の保証・向上に向けた、教職員の創意工夫による教育活動を推進する環境づくり

5 地域・家庭・学校をつなぐ<教育環境づくり>

視点13 グローバル化の進展に対応した教育やインクルーシブ教育の推進に向けた環境整備

提言24 グローバル化が進行する社会において、子どもたちが国際社会の中で生きていく力を身に付けるための教育環境を整える

提言25 共生社会の形成に向け、できるだけすべての子どもが同じ場で共に学び共に育つ「インクルーシブ教育」のための教育環境を整える

視点14 生涯にわたる自分づくりを支える教育ネットワークの構築

提言26 子どもから大人までの生涯にわたる自分づくりを支援するため、地域・学校と社会教育機関との連携・協力により、社会教育施設等の新たな活用に取り組む

提言27 豊かな人間性や社会性を育む体験活動やボランティア活動のため、行政や大学、企業、NPO等の人材や施設をいかしたネットワークづくりと活用を進める

視点15 教育行政に係る施策・事業の計画的な実施と対応

提言28 子どもたちが安全・安心な学校生活を送ることができる、信頼に応える教育環境づくりに計画的に取り組む

提言29 「かながわ教育ビジョン」の理念の実現に向け、かながわの教育を考える機会として「かながわの教育の日、教育週間等」を設定し、県民との協働を推進する

提言30 点検・評価等の外部の専門家等による充実を図り、「かながわ教育ビジョン」に基づく教育施策・事業の計画的で着実な実施に取り組む

5 県民意見募集の展開

多くの県民の皆様からご意見をいただくため、素案、素案(修正版)において、県民意見募集を行いました。

(1) 素案に対する意見募集

ア 募集期間

平成 26 年 7 月 11 日～8 月 10 日

イ 意見提出者数及び意見・提案件数

132 人・団体、205 件

ウ 意見などの反映状況

県民の皆様からの意見などの反映状況を明らかにするため、県民意見整理台帳を作成し、県政情報センターなどに備え付けます。また、教育ビジョンのホームページでも見ることができます。

内容	意見・提案件数(件)
一部改定の方角の全体に関する事(第4章、第5章)	39
「第4章 展開の方角」に関する事	38
「第5章 重点的な取組み」に関する事	85
素案の構成に関する事	5
その他(感想、質問等)	38
合計	205

(2) 素案(修正版)に対する意見募集

ア 募集期間

平成 27 年 7 月 14 日～8 月 12 日

イ 意見提出者数及び意見・提案件数

58 人・団体、112 件

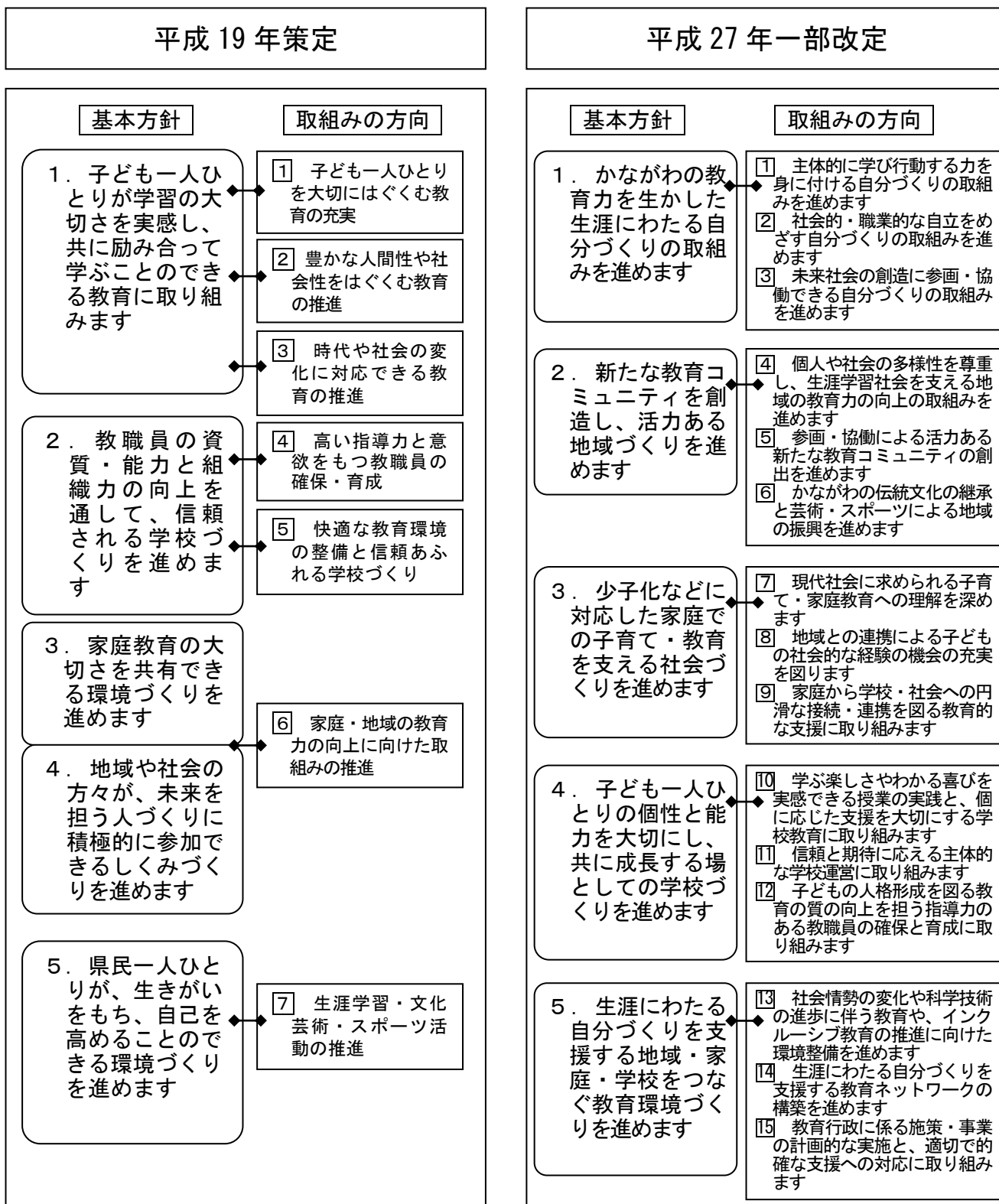
ウ 意見などの反映状況

県民の皆様からの意見などの反映状況を明らかにするため、県民意見整理台帳を作成し、県政情報センターなどに備え付けます。また、教育ビジョンのホームページでも見ることができます。

内容	意見・提案件数(件)
一部改定の方角の全体に関する事(第4章、第5章)	4
「第4章 展開の方角」に関する事	25
「第5章 重点的な取組み」に関する事	64
素案(修正版)の構成に関する事	4
その他(感想、質問等)	15
合計	112

参考 第4章・第5章に関する平成27年一部改定と平成19年策定時との比較

○第4章について



○第5章について

平成 19 年策定	平成 27 年一部改定
<p>I. 心ふれあう教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな心をはぐくむ「交流・体験」の充実 ○不登校、いじめなど緊急課題への対応の強化 	<p>I. 生涯学習社会における人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○思いやる力やたくましく生きる力を身に付ける自分づくりへの支援の充実 ○社会とかかわる力を身に付ける自分づくりへの支援の充実 ○生涯にわたる自分づくりの推進に向けた協働・連携の拡大・充実
<p>II. 共に育ち合う教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援教育の推進 ○企業等と連携した就労支援の充実 	<p>II. 共生社会づくりにかかわる人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな心を育む教育の充実と、不登校、いじめ・暴力行為への対応の強化 ○インクルーシブ教育の推進 ○「外国につながるのある児童・生徒」への指導・支援の充実
<p>III. 学び高め合う学校教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもや地域の実態に応じた教育指導の充実 ○これからの時代に向き合うことのできる力を獲得する学びの推進 ○生き方や社会を学ぶ教育の充実 ○学び直しを大切に学習環境の充実 	<p>III. 学びを通じた地域の教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会教育施設や学校等を活用した地域での学びの場づくりの推進 ○地域力を生かしたコミュニティ・スクールの普及と充実
<p>IV. 意欲と指導力のある教職員の確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かながわの学校教育を担う教職員の確保・育成 ○学校支援や教職員研修に関するセンター機能の純化と強化 	<p>IV. 子育て・家庭教育への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの社会的な経験の機会の充実 ○子育て・家庭教育への理解と環境づくり
<p>V. 県立学校の教育環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計画に基づく着実な教育環境の改善 	<p>V. 学び高め合う学校教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力の向上を図る取組みの充実 ○生き方や社会を学ぶ教育の充実 ○グローバル化などに対応した教育の推進
<p>VI. 協働と信頼に根ざした学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自主的・自律的な学校経営を実現するシステムづくり ○「評価と支援」が一体化した学校評価システムづくり ○保護者や地域住民等との協働による学校づくり ○多様な選択の機会と質の高い教育サービスを提供するしくみづくりの検討 	<p>VI. 意欲と指導力のある教職員の確保・育成と活力と魅力にあふれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かながわの人づくりを担う教職員の確保・育成の計画的な推進 ○学校支援や教職員研修に関するセンター機能の充実と強化 ○信頼に根ざした活力と魅力にあふれた学校づくり ○学校評価や第三者評価を活用した学校経営の推進
<p>VII. 子育て・家庭教育への応援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○楽しい子育て環境づくりの推進 ○家庭の絆づくり運動の推進 	<p>VII. 県立学校の教育環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな学びを実現する教育環境の整備 ○効率的で主体的な学校運営の推進のための教育環境の改善
<p>VIII. 学びを通じた地域の教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域での学び合いコミュニティづくり ○スポーツや文化芸術活動を通じた県民ライフの推進 ○かながわの魅力にもとづく「かながわ学」の発信 	<p>VIII. 文化芸術・スポーツの振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かながわの魅力ある歴史・文化芸術等の充実と継承・発展 ○健康で豊かな生活の実現とスポーツの振興